

僕たち2年1組は特に応援コンクールに力を入れていました。僕は夏休みに踊りを考えるために学校に来ました。歌も踊りもすぐに決まりました。学校が始まってみんなに教えました。なかなかできなくて声もちっちゃくて僕はやる気をなくしてダラダラやっていました。でも、やる気のあるみんなを見て、「自分がばかだったんだ」と思いました。応援コンクールは優勝できなかったけど、最高の踊りができたので悔いはありません。

2-1

僕は団長をして、何事も一人ではできないことを学びました。応援コンクールの練習の時にクラスの仲間は素直にリーダー達の話聞いてくれました。また、先生方はみなさん、「2組は声が大きかったね」と言ってくれました。これは僕一人ではどうすることもできないので、これこそ仲間たちの優勝への意識の高さを表しています。

僕の部活はチームプレーなので、今回のように協力して新人戦でも優勝できるように頑張ります。

2-2

僕は最初、団長としてクラスを引っ張っていけるか心配でした。応援の練習も声は出ないしやる気がない弱そうなクラスでした。僕はそれを注意すらできない名前だけの団長でした。まず、リーダーがしっかりしないと他の子がついてこないと思いました。本番が近づくとつれ、クラスの雰囲気は良くなりました。応援コンクール本番では一人一人が全力を出し切れたことが嬉しかったです。このままでは終われません。この悔しさをバネに合唱コンクールでは優勝します。

2-3

私は体育大会で応援コンクール優勝を目標に練習に取り組みました。しかし、優勝にはあと一步届きませんでした。最後の振り付けは動きが速く覚えるのに時間がかかり、本番の3日前まで全くそろっていませんでした。そこで私は、副団長として自分から進んで声を出すようにしました。前日にはみんなの動きもまとまり、声も出せるようになりました。当日は一番良い応援になってクラスの絆がもっと深まったと思います。私は、今年の応援コンクールで最初からできないと思わず、何事もあきらめずに取り組むことの大切さを学びました。

2-4

閉会式を終えた時の私の心には、楽しかったという思いよりも、全力でやり遂げたという達成感よりも、悔しいという思いが一番強く残っていました。3年間で最後の体育大会、TOPをつかみとるため、自分なりに考え、行動しました。応援コンクールでは悔いの残らないよう全力で声を出し、同じ青団の人が競技をしている時は前に出て、必死に応援しました。それでも優勝することができず、本当に悔しかったです。でも、今は仲間がいたからこそ団結でき、悔いのない体育大会になったと思います。改めて仲間の存在の大きさ、大切さに気付かされました。3-1の級訓のように、友を思いやり、次こそはTOPをとります。

3-1

